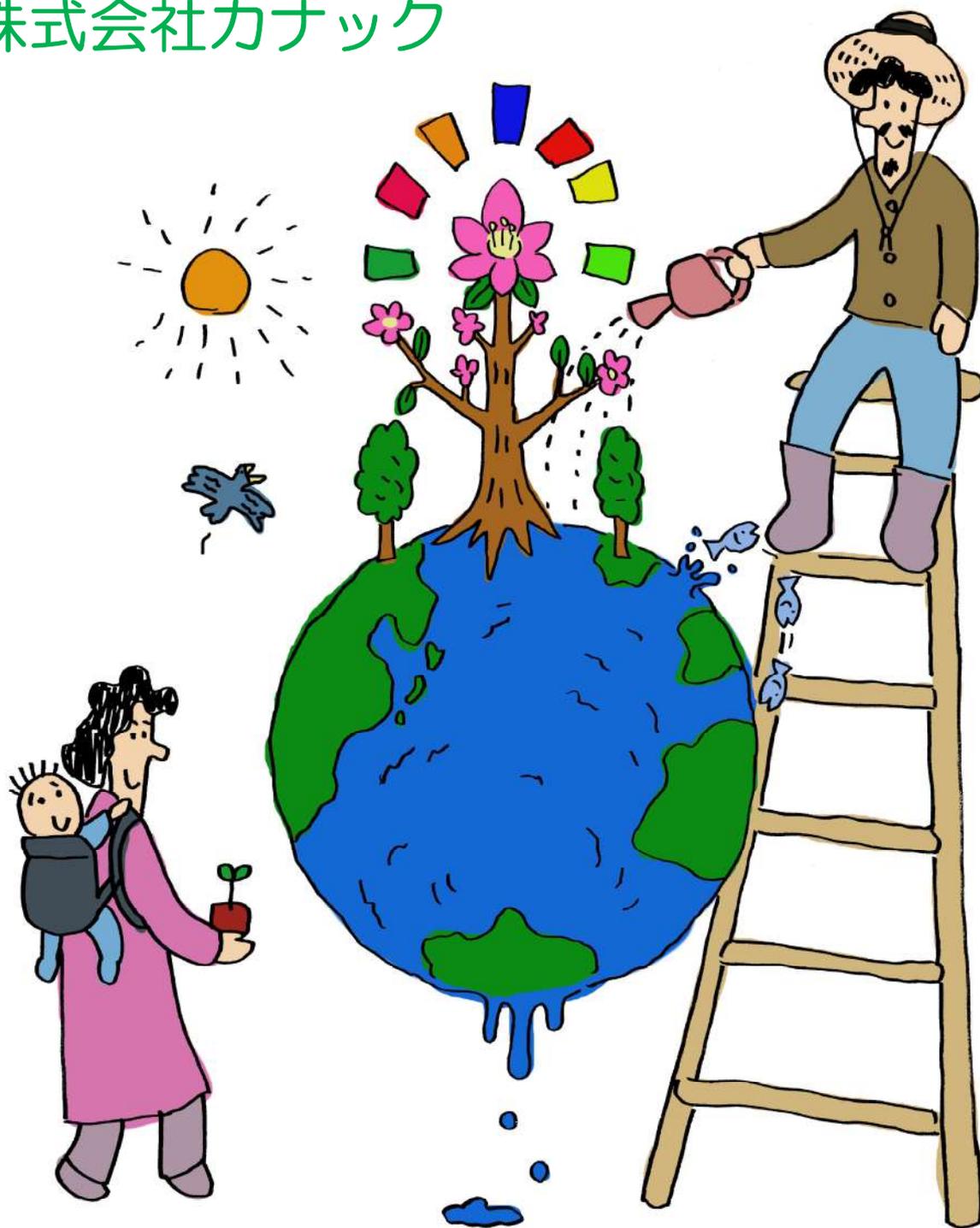


株式会社カナック



SUSTAINABILITY REPORT 2025

●表紙イラストに込めた想い

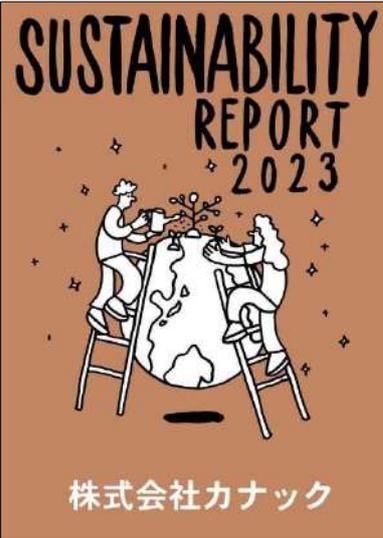
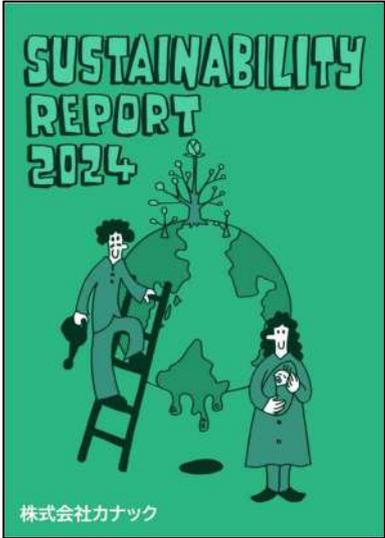
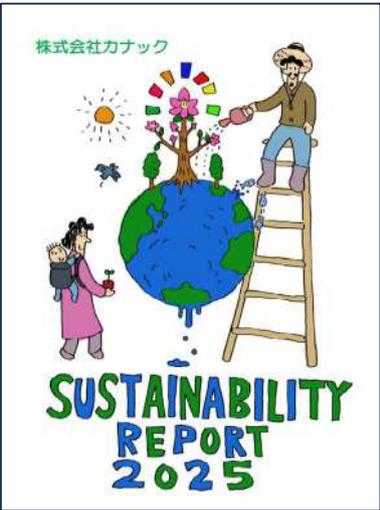
イラスト:製造部 岡田さん

Q. 4年目のイラストとなりますが、どんな思いを込めて描きましたか？

4年目になり家族が地球に愛情を注ぎ生命が増え、今までやり続けた事の成果が出てきたという思いを込めました。

Q. 作品を描く際に工夫した点や難しかった点は？

今までと色を変えポップな感じを出して、これまでの成果を色使いや笑顔で表現しました。

イラスト(表紙)履歴		
2022年	2023年	2024年
 <p>SUSTAINABILITY REPORT 2022</p> <p>CHALLENGE</p> <p>株式会社カナック</p>	 <p>SUSTAINABILITY REPORT 2023</p> <p>株式会社カナック</p>	 <p>SUSTAINABILITY REPORT 2024</p> <p>株式会社カナック</p>
2025年		
 <p>株式会社カナック</p> <p>SUSTAINABILITY REPORT 2025</p>		

●方針

目的

本報告書は、社内外の関係者にむけて、弊社の環境に関する活動・情報を発信・開示するために作成いたしました。

範囲

国内（本社、東海営業所、藤枝工場、東海工場）

期間

2025年度（2024年8月～2025年7月）

次回レポート予定日

2026年12月

※対象期間：2025年8月～2026年7月

作成

経営戦略室



●Table of contents

1. コーポレートメッセージ
2. 会社概要
3. 私たちの方針
4. カナックの化学技術で日本のモノづくりに貢献
5. SBT (Science Based Targets)の目標設定
6. 減らすためのロードマップ
7. 温室効果ガス(CO₂)排出量報告
8. 見積書への CO₂排出量表示を開始
9. カナック SDGs 宣言

●コーポレートメッセージ

「変わり続ける地球に、技術と誠実さで応える。」

気候変動の深刻化、資源制約の顕在化、グローバルサプライチェーンの再構築、そしてサステナビリティ開示基準の高度化。
いま、ものづくりを取り巻く前提は大きく揺らぎ、歴史的な転換点を迎えています。

2025年8月5日、群馬県伊勢崎市では41.8℃を記録し、国内歴代最高気温を更新しました。

異常な暑さが全国的に続き、季節の移ろいはかつての感覚とは大きく変わっています。
「夏と冬が長く、春と秋は一瞬で過ぎてしまう」。

そんな声が聞かれるほど、私たちの日常やものづくりの現場は、気候変動の影響を直接受ける段階に入りました。

環境問題は、もはや“遠い未来の課題”ではなく、今この瞬間の企業活動に関わる現実となっています。

かつて製造業は「Q(品質)・C(コスト)・D(納期)」を競う時代でした。

しかしいま、企業が評価される軸は大きく広がり、そこに「環境価値」と「透明性」が求められる時代へと変わりつつあります。

環境負荷をどれだけ減らせるか、限られた資源をどう効率化するか、取り組みやデータをどれだけ可視化し誠実に示せるか。

これらは製造業の競争力そのものを左右する、新たな価値基準になりつつあります。
1988年の創業以来、カナックは独自の技術力を磨き続け、代表的な技術である「カナック処理」を通じて金型・治工具の長寿命化に取り組み、日本のものづくりを支えてきました。

創業来、大切にしてきたのは「技術を通じて社会に役立つ価値を提供する」という姿勢です。

この価値観は、昔も今も変わることなく受け継がれています。
私たちは、こうした変化を“脅威”ではなく“使命”と捉え、技術を磨き、誠実さを貫きながら、お客様・地域社会と共に持続可能な未来を創ってまいります。

変化の激しい時代だからこそ、変わらない価値があります。それは「技術」と「誠実さ」。
カナックは、この揺るぎない原点を胸に、ものづくりの明日を力強く、そして持続可能に切り拓いてまいります。

●会社概要

- 会社名 株式会社カナック
- 代表者名 堀越 弘也
- 事業内容 表面処理(窒化処理)
- 所在地 藤枝市仮宿 1634-1
- 創立 1988年8月
- 資本金 1,100万円
- 社員数 60名(国内)

【拠点】

- 本社・藤枝工場



- 東海営業所・東海工場



● 私たちの方針

【サービス】

カナック処理による金属の硬さを保証し、お客様と時代のニーズに応えるしなやかなサービスを提供することで、お互いの持続可能な成長を追い求めます。

【環境】

未来の環境をより豊かなものとする為に、社内での CO2 排出削減活動を推進します。また、カナックの化学技術で、お客様の環境負荷低減に貢献します。

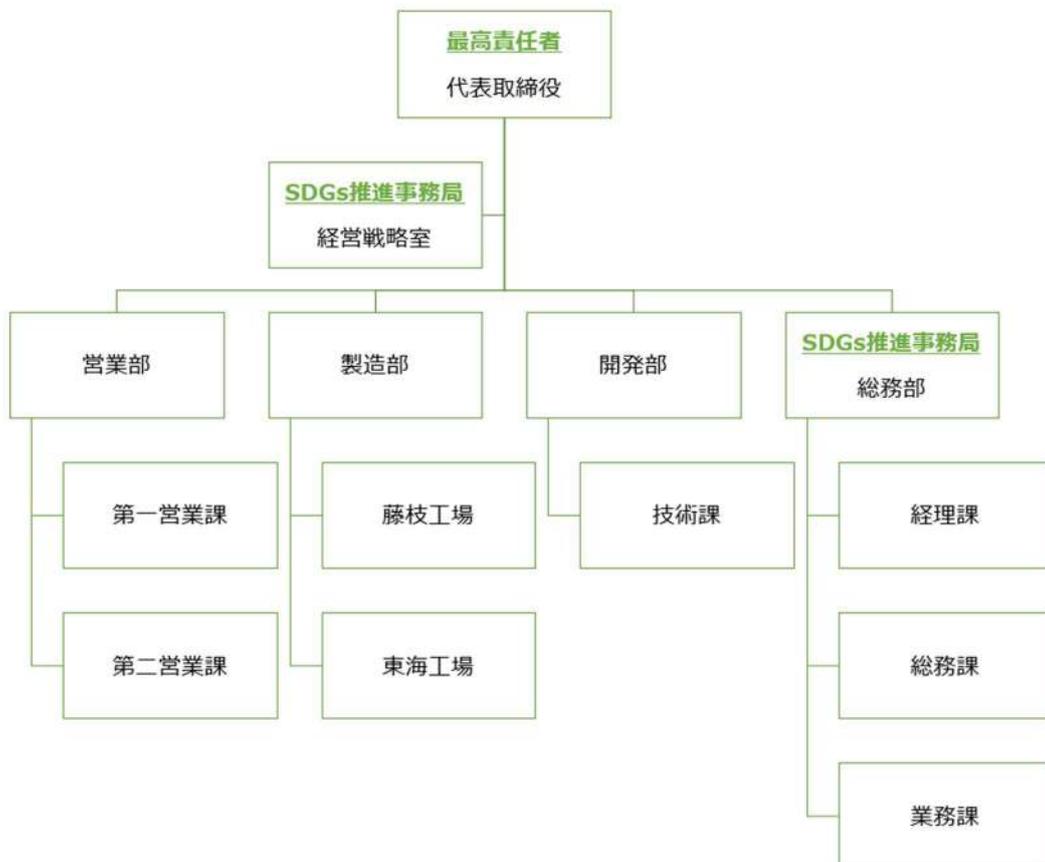
【人権・働きがい】

人種・国籍・性別・年齢・障害の有無・価値観・働き方等、一人ひとりの多様性を認め、尊重し、支え合うことで、理想的な職場を実現します。

【地域・社会貢献】

持続可能な地域社会の実現に向けて、課題を学び、地域への貢献活動に積極的に参画いたします。

● 2025年度の体制



●カナツクの化学技術で日本のモノづくりに貢献

独自の窒化処理技術である「カナツク処理」による金型の長寿命化を通じ、製造現場における環境負荷低減に取り組んでいます。

本項では、長野県に拠点を構える太陽工業株式会社様のご協力のもと実施した、プレス金型を用いた実機検証を通じて、当社の表面処理技術が日本のモノづくりと環境課題の解決にどのように貢献できるのかを紹介します。

1. はじめに

近年、製造業においては、製品品質や生産性の向上に加え、環境負荷低減への対応が強く求められている。特に日本の産業部門は、国内 CO₂排出量の約 3 割を占めており、その中核を担う製造業の取り組みは、社会全体に与える影響も大きい。

当社は、金型および治工具を対象とした表面処理を専門とする受託加工業として、金型の長寿命化を通じた資源循環および CO₂排出量削減に取り組んできた。

本稿では、当社独自の窒化処理技術「カナツク処理」を活用した金型長寿命化の効果と、それに伴う CO₂排出量削減の可視化事例について報告する。

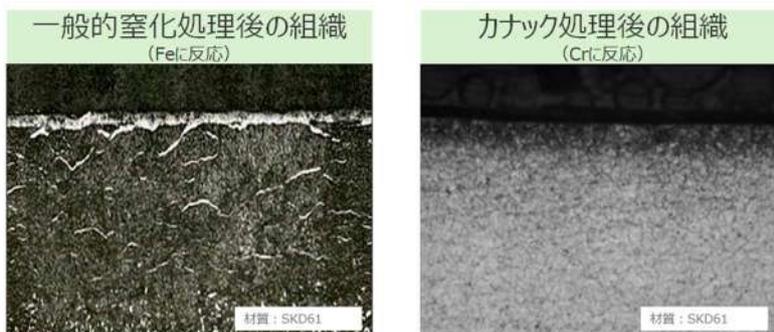
2. カナツク処理の技術的特徴

カナツク処理は、一般的な鉄(Fe)に反応させる窒化処理とは異なり、鋼中に含まれるクロム(Cr)と選択的に反応させる熱拡散型の窒化処理である。

500～530℃の比較的低温域で処理を行うため、寸法変化や面荒れが極めて少ない点が大きな特長である。

また、一般的な窒化処理で問題となる化合物層(白層)が生成されないため、溶接補修後の再処理や繰り返し処理が可能となり、金型をライフサイクル全体にわたり使用することができる。

■SKD61 材 一般的な窒化処理後／カナツク処理後の断面組織比較



3. 複雑形状部への均一な処理効果

ガス窒化の一種であるカナック処理は、プラズマ窒化に見られる角部への硬化層集中がなく、深穴や内径部においても均一な硬化層を形成できる。

このため、複雑形状を有する金型や配管部品においても、安定した耐摩耗性向上が期待できる。

4. 金型長寿命化とサーキュラーエコノミー

プレス金型には SKD11 などの特殊鋼が多用されており、クロム、モリブデン、バナジウムといったレアメタルが含まれている。

これらの資源は供給リスクや環境負荷の観点からも、可能な限り長期間有効活用することが求められている。

カナック処理による金型の長寿命化は、新規金型製作の頻度を抑制し、資源投入量の削減および廃棄物発生抑制に寄与するものであり、サーキュラーエコノミーの実現に資する有効な手段である。

5. 実機検証による CO₂排出量削減効果

(太陽工業株式会社様 共同検証事例)

本検証は、電子部品用プレス金型を対象に、太陽工業株式会社様の全面的なご協力のもと実施した。

実機金型を用い、無処理金型、カナック処理+PVD 複合処理、EVOLK 処理+PVD 複合処理の 3 条件にて、金型寿命および CO₂排出量削減効果の比較評価を行った。

まず、スクラッチ試験およびロックウェル圧痕試験により、PVD 被膜と母材の密着性を評価した。その結果、EVOLK 処理を下地とした PVD 複合処理では、剥離開始荷重および完全剥離荷重の双方で最も高い数値を示し、被膜密着性の大幅な向上が確認された。

■ロックウェル圧痕試験結果比較 (300倍)



これらの結果を踏まえた実機生産検証では、無処理金型が約 110 万ショットで被膜剥離に至ったのに対し、EVOLK 処理+PVD 複合処理を施した金型では、226 万ショットまで安定した生産が可能であり、従来比で 2 倍以上の製品生産数を達成した。

さらに、鋼材調達から金型加工、表面処理、輸送、廃棄に至るライフサイクル全体で CO₂排出量を算定した結果、EVOLK 処理を施した金型では使用型数を大幅に削減でき、ライフサイクル全体で 60%以上の CO₂排出量削減効果が確認された。

本事例は、金型の長寿命化がコスト低減や生産性向上にとどまらず、温室効果ガス排出削減という環境価値を実機・実数値で創出できることを示したものである。また、受託加工業である当社と金型ユーザーである太陽工業株式会社様が連携することで、サプライチェーン全体での環境負荷低減が実現可能であることを示唆している。

■前提条件

選定金型:電子部品を生産している金型

被加工剤:コルソン銅、材質 0.15mm

期間:鋼の購入から廃棄までの製品生産数を計測し、CO₂排出量を算定

CO₂排出量「塑性加工」:一定個数の電力量(Ex:1 万ショット生産時)=排出原単位×活動量(kWh)

	無処理 (PVDのみ)	カナック PVD	EVOLK PVD	効果 ※無処理とEVOLK PVD対比
金型廃棄までの 製品生産数	110 (万個)	160 (万個)	226 (万個)	205%
製品生産後の 金型写真				
226万個生産当たりの CO ₂ 排出量	5.94 (t-CO ₂) ※無処理の金型3個分	3.96 (t-CO ₂) ※無処理の金型2個分	1.98 (t-CO ₂)	66.6%

6. おわりに

表面処理による金型の長寿命化は、品質およびコストの改善に加え、CO₂排出量削減と資源循環の両立を可能にする有効な手段である。

本事例を通じ、受託加工業である当社においても、サプライチェーン全体と連携することで、環境負荷低減に実効性をもって貢献できることを示すことができた。

当社は今後も、カナック独自の化学技術を基盤とした表面処理を通じ、日本のモノづくり産業と環境課題の解決に向けた取り組みを継続していく。

なお、本取り組みおよび評価にあたり、多大なるご協力を賜りました太陽工業株式会社様に、心より御礼申し上げます。

●SBT (Science Based Targets)の目標設定

地球環境の保全は、事業運営上必要不可欠な経営課題の一つとして認識しており、パリ協定が求める水準と整合した、温室効果ガス排出削減目標を設定いたしました。

持続可能な社会に向け、社内外での取り組みを進めて参ります。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

目標水準:WELL-Below1.5℃

基準年:2022年

目標年:2030年

概要:Scope1とScope2の排出を基準年の42%削減、Scope3の排出量を測定し削減

●減らす為のロードマップ



地球温暖化の主因である温室効果ガスの増加による環境悪化は、もはや猶予のない課題となっています。カナックでは、2050年までのカーボンニュートラル達成を目標に掲げ、企業全体で段階的な取り組みを進めています。当社では、「知る・減らす・作る・選ぶ・融通する(その他)」というフレームワークのもと施策を整理し、現在は特に**「減らす」**取り組みを中心に推進しています。今後は**「作る」**取り組みについても検討・実施を進めていきます。

① 知る

カナック全体でのCO₂排出量を把握するとともに、当社の処理工程において発生するCO₂排出量を測定します。これらのデータは一次データとして整理し、お客様へ提供することで、環境負荷の「見える化」に貢献します。

② 減らす

事業活動から発生する廃棄物の分別およびリサイクルを徹底し、廃棄物削減に向けた小規模な改善活動を継続的に推進します。また、製品の配達および引取り業務においてはエコドライブを徹底し、将来的には環境負荷の少ない車両の導入についても検討していきます。

③ 作る

太陽光発電や蓄電池の導入をはじめ、その他の再生可能エネルギーの活用について検討を進めます。直接的・間接的なCO₂排出削減に取り組むとともに、エネルギー使用の効率化を図り、省エネルギー化を推進しています。

④ 選ぶ

物品の購買にあたっては、リサイクルや環境配慮に取り組んでいる製品を優先的に選択します。あわせて、グリーン電力の導入についても検討を進めていきます。

⑤ 融通する(その他)

藤枝市環境保全協議会を通じた環境講演会・研修会・清掃活動などへの参加により、市や他のパートナー企業と連携を深めてきました。今後も「持続可能な社会の実現」という共通の志を持つ仲間とのネットワークを広げ、積極的に活動していきます。

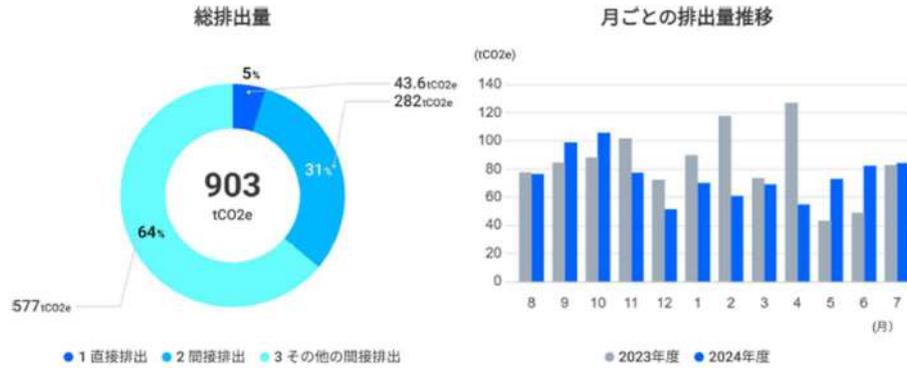
●温室効果ガス(CO2)排出量報告

カナックは、「次世代によりよい世界」をビジョンに掲げ、グローバルにサステナビリティ経営を支援するアスエネ株式会社様の提供するクラウドサービス「アスエネ」を使用しております。「アスエネ」は、国際規格 ISO14064-3 に準拠した信頼性のある CO2 排出量算定が可能です。又、毎月 CO2 排出量を減らしていくためにはどうしたらよいかを話し合い、目標達成に向けてサポートもいただいております。



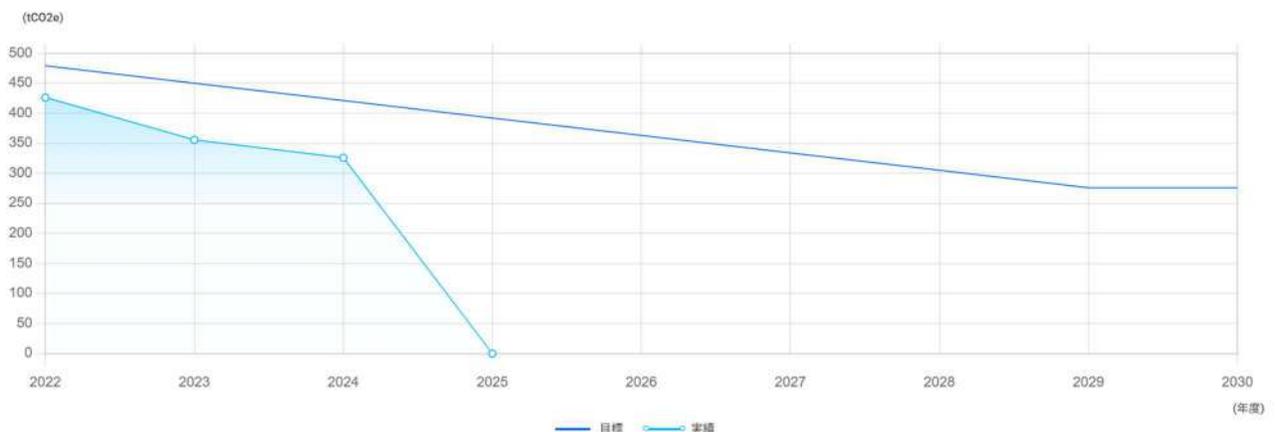
CO₂排出量削減に加え、サプライチェーン全体の排出量管理の重要性を受け、一次データの提供と精度向上を目指してまいりました。これからも国内外のサステナビリティ開示基準に対応しつつ、処理製品に係る CO₂排出量データの提供に向けた体制強化を進めています。

CO2 排出レポート:カナック全体

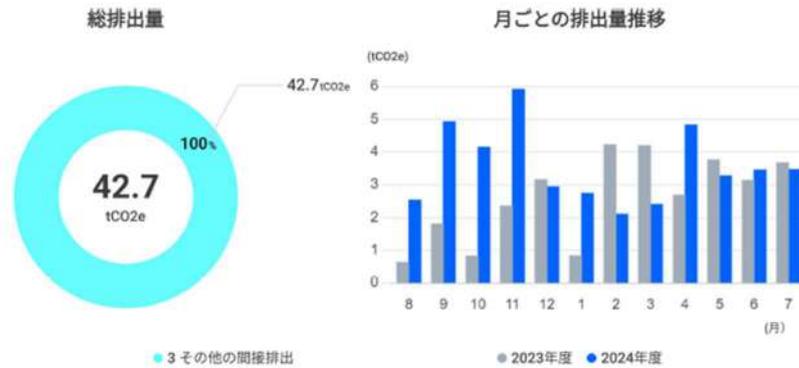


スコープ	カテゴリ	CO2e排出量 (tCO2e)	割合
1 直接排出		43.6	4.83%
2 間接排出		282	31.3%
		577	63.9%
3 その他の間接排出	1 購入	385	66.7%
	2 資本財	38.7	6.71%
	3 その他燃料	54.2	9.39%
	4 輸送 (上流)	25.8	4.47%
	5 事業廃棄物	11.1	1.93%
	6 従業員の出張	7.94	1.38%
	7 従業員の通勤	54.4	9.43%
	8 リース資産 (上流)	-	-
	9 輸送 (下流)	-	-
	10 商品の加工	-	-
	11 商品の使用	-	-
	12 商品の廃棄	-	-
	13 リース資産 (下流)	-	-
	14 フランチャイズ	-	-
	15 投資	-	-
	16 その他	-	-
合計		903	-

削減目標・実績 ※SBT 目標設定に準ずる Scope1&Scope2



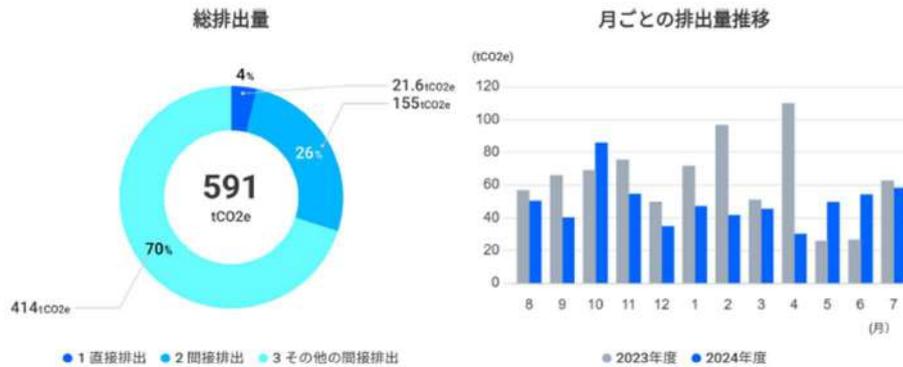
CO2 排出レポート:カナック本社



スコープ	カテゴリー	CO2e排出量 (tCO2e)	割合
1 直接排出		0	0%
2 間接排出		0	0%
3 その他の間接排出		42.7	100%
	1 購入	11.4	26.6%
	2 資本財	2.38	5.56%
	3 その他燃料	-	-
	4 輸送 (上流)	23.5	55%
	5 事業廃棄物	-	-
	6 従業員の出張	5.51	12.9%
	7 従業員の通勤	-	-
	8 リース資産 (上流)	-	-
	9 輸送 (下流)	-	-
	10 商品の加工	-	-
	11 商品の使用	-	-
	12 商品の廃棄	-	-
	13 リース資産 (下流)	-	-
	14 フランチャイズ	-	-
	15 投資	-	-
16 その他	-	-	
合計		42.7	-

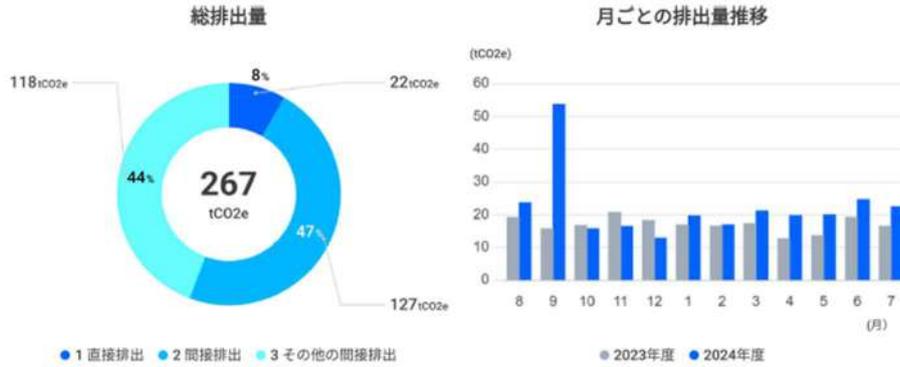
※Scope1、Scope2、Scope3 の CATEGORY3,4,5 においては、藤枝工場含む

CO2 排出レポート: 藤枝工場



スコープ	カテゴリー	CO2e排出量 (tCO2e)	割合
1 直接排出		21.6	3.65%
2 間接排出		155	26.3%
3 その他の間接排出	1 購入	414	70.1%
	2 資本財	334	80.7%
	3 その他燃料	0.472	0.11%
	4 輸送 (上流)	29.7	7.18%
	5 事業廃棄物	0.591	0.14%
	6 従業員の出張	6.82	1.65%
	7 従業員の通勤	2.34	0.57%
	8 リース資産 (上流)	40.1	9.69%
	9 輸送 (下流)	-	-
	10 商品の加工	-	-
	11 商品の使用	-	-
	12 商品の廃棄	-	-
	13 リース資産 (下流)	-	-
	14 フランチャイズ	-	-
	15 投資	-	-
	16 その他	-	-
合計		591	-

CO2 排出レポート: 東海工場



スコープ	カテゴリー	CO2e排出量 (tCO2e)	割合
1 直接排出		22	8.25%
2 間接排出		127	47.5%
		118	44.3%
3 その他の間接排出	1 購入	39.2	33.2%
	2 資本財	35.9	30.3%
	3 その他燃料	24.4	20.7%
	4 輸送 (上流)	0.0155	0.01%
	5 事業廃棄物	4.31	3.64%
	6 従業員の出張	0.0945	0.08%
	7 従業員の通勤	14.3	12.1%
	8 リース資産 (上流)	-	-
	9 輸送 (下流)	-	-
	10 商品の加工	-	-
	11 商品の使用	-	-
	12 商品の廃棄	-	-
	13 リース資産 (下流)	-	-
	14 フランチャイズ	-	-
	15 投資	-	-
	16 その他	-	-
合計		267	-



株式会社カナック SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標（SDGs）」に賛同し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

2023年2月1日

株式会社カナック

代表取締役社長 堀越弘也

SDGs達成に向けた当社の約束と取組

私たちは日本のものづくりと共に寄り添い、対話を通じ、製造業に関わる全ての人や地域と、活力ある未来を探求し続けます。

サービス

私たちは、カナック処理による金属の硬さを保証し、お客様と時代のニーズに応えるしなやかなサービスを提供することで、お互いの持続可能な成長を追い求めます。

<主な取り組み>

- 常にカナック処理の基礎データを更新することにより、サービスの研鑽に努めます。
- 製品品質をより高める為に、お客様からのご要望を真摯に受け止め、最善の方法を考え提供します。



環境

未来の環境をより豊かなものとする為に、社内でのCO2排出削減活動を推進します。また、カナックの化学技術で、お客様の環境負荷低減に貢献します。

<主な取り組み>

- 2030年度までにCO2排出量をSBTIに整合した25%削減を目指します。（※2020年度対比）
 - >SCOPE1、2でのCO2排出量を全社員に毎月共有
 - >環境報告書の作成と報告を毎年3月に実施
- 産業廃棄物の削減
 - >可燃ごみと廃プラ（再生可能プラスチック）の分別
 - >コピー用紙の使用数削減



人権・働きがい

カナックは人種・国籍・性別・年齢・障害の有無・価値観・働き方等、一人ひとりの多様性を認め、尊重し、支え合うことで、理想的な職場を実現します。

<主な取り組み>

- 有給休暇取得の推進
 - >有給休暇取得率50%/年
- 従業員満足度(Engagement Score)の定期計測とアクションプランの策定と実施
 - >厚労省平均3.42
- 製造工場内の安全推進活動の実施
 - >現場作業員からの改善要望80%対応



地域・社会貢献

持続可能な地域社会の実現に向けて、課題を学び、地域への貢献活動に積極的に参画いたします。

<主な取り組み>

- 職場体験の実施、地元出身者の積極的な採用
- 藤枝市環境保全協議会への積極的な参画



Kanuc